

「自然史博物館の学芸員さんと東三河の自然を学ぶ」が1月15日、22日、29日に開催されました。第1回は「知られざるニホンオオカミを探る」講師は豊橋自然史博物館の安井謙介学芸員さんです。かつては東三河にも多くのニホンオオカミがいましたが、20世紀初頭に絶滅してしまったとのことです。昔は鹿や猪を退治する大神（オオカミ）として崇められていましたが、開発により生息地が少なくなったり病気になったり駆除されたりして絶滅してしまったそうです。一昨年前にニホンオオカミの頭骨が豊川市から自然史博物館に寄贈され、調査をしたお話も聞くことができました。



第2回は「大切にしたい！ 汐川干潟の置物たち」講師は豊橋自然史博物館の西浩孝学芸員さんです。汐川干潟の特徴から、生息している貝類、環形動物、扁形動物、カニ、鳥類、魚類、海藻、植物などや、干潟



の役割、干潟における課題などについて、写真や動画で教えてくださいました。

第3回は侵略的外来種の驚くべき実態について、外来種（植物）の侵入の実態や駆除の方法、そしていかにして元の生態系を守るかについて学びました。講師は豊橋自然史博物館の稗田真也学芸員さんです。豊橋市には外来種が多いことがわかりました。人の行き来や経済活動が活発なことが要因の一つとのことです。「ミズヒマワリ」や「ヒガタアシ」などは日本で初めて確認されたのが豊橋市ということでした。陸上から水辺などの様々な環境に生息する適応能力、切れ端からも成長する再生能力、水鳥に食べられても排泄物の中で生きて場所を移動する分散能力など、外来種はたくましく生きる力を持っていることがわかりました。受講者はメモをとりながら集中して学んでいました。

